

## 七〇歳迎える宗谷

品川区東八潮の「船の科学館」の海上に「宗谷」(写真)が保存・展示されています。宗谷といえは「南極観測船」を思い起こす人が多いでしょう。宗谷は、一九五六(昭和31)年十一月八日から一九六二(昭和37)年四月十七日まで南極観測船として活躍しました。

しかし宗谷はかつては元海軍の特務艦だった歴史をもち、数々の戦乱をくぐり抜けてきました。元海軍の艦がいまでも海に浮かんでいるのは宗谷だけです。



発注で耐氷型貨物船として、川波工業松尾造船所(後に香焼島造船所と改名)によつて起工され

海軍の測量船として衣替えした宗谷

ことは、宗谷誕生から七〇周年です。

旧ソ連からの発注で起工された耐氷型の宗谷

宗谷はソ連(現在のロシア連邦)外務部からの



名も「地領丸」と変えて同年六月に竣工しました。

地領丸の耐氷能力に注目したのが海軍。当初は12インチ単装広角砲(たんそうこうかくほう)を装備した「新砕氷艦」に改造することが極秘に検討されていきました。諸般の事情でこれは見送られ、一九三九(昭和14)年一月、海図作成のための測量船として海軍が買い上げたのです。地領丸は東京石川島造船所(現在のIHI株式会社)で改造され船名も「宗谷」として海軍の特務艦になったのです。一九四〇(昭和15)年二月のことです。海軍所属の艦艇の名前は「丸」は付けずに海峡名を用いるのが習わしで、北海道最北端の宗谷岬の

宗谷海峡にちなんで「宗谷」と名付けられました。海軍特務艦の宗谷はサイパン島など南方測量などに従事。日本は一九四一(昭和16)年十二月八日、真珠湾に攻撃を加え太平洋戦争に突入しました。宗谷も最前線の島々の測量業務や時には陸戦部隊の輸送にもあたりました。最前線に赴いた宗谷は数々の攻撃を受けましたが、不思議に大きな被害を受けませんでした。一九四三(昭和18)年一月、パプアニューギニアのブカ島沖で米軍の魚雷攻撃を受けましたが、抵抗の大きい耐氷構造のために航行時の波が大きく相手が速度を見誤り魚雷が外れ、一発だけあたった魚雷は不発弾でした。一九四四(昭和19)年二月の米軍のトラック島大空襲では日本軍の死者六〇〇人、艦船五十隻、航空機二七〇機が壊滅的打撃を受けましたが、宗谷は回避中

こうして生き残った宗谷は、終戦を迎えて外地からの引き揚げ者の輸送船として活躍。一九五六年(昭和31)年には南極観測船の任務に就いたのです。

七〇年にわたり戦争にも翻弄され、戦後の激動を生き抜いた宗谷は、いま海の上に静かに身をおいています。憲法をかえ再び戦争への道を進もうとする動きは宗谷はどう見ているのでしょうか。(交通)新交通ゆりかもめ「船の科学館」下車

戦後は引揚げ船、南極観測船として活躍

## 平和を求めて 34 私の町の戦争跡

品川区  
船の科学館

海軍の特務艦、引揚げ船、南極観測船……数奇の運命たどった宗谷  
いまも海に浮かぶ元海軍の唯一の艦船

※この記事は「船の科学館」資料ガイド「宗谷」、「東京軍事遺跡」(交通新聞社)等を参考にさせていただきました。